20241208 待降節第 2 主日礼拝

司式:海野　恵
奏楽:中井喜久子

前奏 :「今来たりませ、異邦人の救い主」(J.S.バッハ)

招詞 : 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハ 3:16a)

讃美歌 233「高く戸を上げよ」

交読詩編 77:17-21

17 大水はあなたを見た。神よ、大水はあなたを見て、身もだえし/深淵はおののいた。
18 雨雲は水を注ぎ/雲は声をあげた。あなたの矢は飛び交い
19 あなたの雷鳴は車のとどろきのよう。稲妻は世界を照らし出し/地はおののき、震えた。
20 あなたの道は海の中にあり/あなたの通られる道は大水の中にある。あなたの踏み行かれる跡を知る者はない。
21 あなたはモーセとアロンの手をとおして/羊の群れのように御自分の民を導かれました。

朗読聖書①申命記 18:15-22

◆預言者を立てる約束

15 あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。
16 このことはすべて、あなたがホレブで、集会の日に、「二度とわたしの神、主の声を聞き、この大いなる火を見て、死ぬことのないようにしてください」とあなたの神、主に求めたことによっている。
17 主はそのときわたしに言われた。「彼らの言うことはもっともである。
18 わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。彼はわたしが命じることをすべて彼らに告げるであろう。
19 彼がわたしの名によってわたしの言葉を語るのに、聞き従わない者があるならば、わたしはその責任を追及する。
20 ただし、その預言者がわたしの命じていないことを、勝手にわたしの名によって語り、あるいは、他の神々の名によって語るならば、その預言者は死なねばならない。」
21 あなたは心の中で、「どうして我々は、その言葉が主の語られた言葉ではないということを知りうるだろうか」と言うであろう。
22 その預言者が主の御名によって語っても、そのことが起こらず、実現しなければ、それは主が語られたものではない。預言者が勝手に語ったのであるから、恐れることはない。

朗読聖書②マタイによる福音書 5:38-48

◆復讐してはならない

38 「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。
39 しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。
40 あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。
41 だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。
42 求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。」

◆敵を愛しなさい

43 「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。
44 しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。
45 あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。
46 自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。
47 自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。
48 だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

祈祷

愛と慈しみに富み給う救い主イエス・キリストの父なる神さま、尊い聖名を賛美致します。

今朝、夫々の馳場より、一人ひとり名を呼ばれ、待降節第二の主日礼拝へお招きくださいました恵みを心より感謝申し上げます。またライヴ配信によって共に礼拝に与っている兄弟姉妹に等しく恵みを与えてくださいますように祈ります。

私たちは先の主日礼拝において、鮎川牧師を通し『よこしまな時代』と題してメッセージを戴きました。感謝致します。私たちは主の真の光に照らされて闇から光への一歩を踏み出す勇気と希望が与えられていること、苦難の中を歩むときも御言葉の信実に与って、確かな信仰に生かされて、主の業に励みつつ、祈りの生活を全うすることへと導かれました。けれども御前にあって過ぎた一週間の歩みを顧みますと、御心に沿うこと少なく自己中心的に生き、愛に乏しかったことを告白致します。このような私たちをも、今朝、再び礼拝にお招きくださり、悔い改めの機会を与えてくださった尽きない恵みに感謝申し上げます。

神さまは、御子イエス・キリストを私たち一人ひとりの罪の贖いのために、この世へお遣わしくださいました。十字架に架かられ罪を贖うためにこの世にお生まれくださった主を待ち望む待降節の中にあって、時として私たちは町中のクリスマスの賑わいに戸惑いを覚えます。けれども、どうぞ、私たちの驕りを砕いてください。

イエス・キリストの贖いは、先に福音を知らされた私たちを遥かに超えて、今はまだ、十字架の主に出逢ってなくても全ての人のためであること、また平和な国に暮らす私たちには想像も及ばない苦しみの中にある戦地の人々、被災地の人々、全ての人のためであることをどうぞ覚えさせてください。良き知らせを告げ知らせるために、愛に乏しく、欠けの多い不信仰な私たちをも清め、新たに造り替えてお用い下さいますように祈ります。

世界の平和のために祈ります。私たちは平和な地に生かされ、礼拝を守ることが許されています。けれども、信仰を与えられていながらも、礼拝を守ることさえ困難な国や地域の方々に主の助けを切に祈り求めます。人と人とが赦し合えない心が民族の争いを生み、国と国との戦いが何時果てるとも知れません。戦禍が一日も早く止みますように、平和の主の御心が為されますように、切に祈ります。

日本においても痛ましい災害が続いております。北陸の人々の苦しみに助けをお与えくださいますように。また福島に残された測り知れない負の遺産に解決の道をお与えくださいますように切に祈ります。

礼拝から遠ざかっている友の上に憐れみ深き主の御導きを祈ります。病で苦しむ友に、どうぞ癒しと苦しみに耐える信仰と力をお与えください。介護の労苦を担う友、老いの寂しさの中にある友、・・の苦しみ耐えている友の傍らに慰めの主がお立ちくださいますようにお祈り致します。

今朝、『天の父の子となるために』と題して御言葉を取次いでくださる佃牧師のお働きを祝し、聖霊が豊かにお導き下さいますように祈ります。渾身の

思いをもって準備された御言葉を聴く私たちの心を開き、待降節の恵みを授けて戴きますように切に祈ります。

今朝献げられる日本各地の主の日の礼拝、世界各地の礼拝によって、主の救いが遍く宣べ伝えられ、聖名が誉め讃えられますように。この礼拝の主催者として始めから終わりまでも御手の内に置いてくださいますように祈ります。言い尽くし得ませぬ感謝と祈り、私たちの尊き救い主、イエス・キリストの聖名を通してお献げ致します。アーメン。

讃美歌 288「恵みにかがやき」

説教「天の父の子となるために」　　佃　雅之

今朝は『**マタイによる福音書**』から 5 章の終わりの個所が朗読されました。『**山上の説教**』と呼ばれるこの個所には、キリストの弟子の生き方が纏めて書かれています。「**だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。(39 節)**」、「**敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。(44 節)**」今日の個所にあるこの言葉は、恐らく一度は聴いたことがある有名な言葉ではないでしょうか。

“**頬を打たれる**”ことを想像するとき、多くの人は右利きですから、左の頬を打たれると思います。ですから、“**右の頬を打たれる**”ということは、その人は“**右の手の甲で打った**”ということです。ユダヤの律法で“**手の甲で人を打つことは、手の平で打つ二倍の侮辱を与える行為**”と言われています。キリストは受けた侮辱に対してやり返すことを禁じるだけではなく、“**左の頬をも向けなさい**”と言われています。更に、敵のことを愛すべき隣人と見做し、“**迫害する者のために祈れ。**”と言われているのです。私たちなら、このキリストの言葉に“**はい、そうします**”と聞き従うことが出来るでしょうか。“**とてもできそうにない。**”、それが私たちの実感ではないでしょうか。一般的には非現実的としか思えないこの言葉に、どのような意味が込められているのでしょう。

キリストが「**迫害**」という言葉に触れられるのは初めてのことではありません。『**山上の説教**』の初めから「**迫害される人々は、幸いである(9 節)**」、また「**わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。(11 節)**」とも語られていました。

『**マタイによる福音書**』が書かれたのは、キリストが十字架に架けられ死に復活して天に挙げられて 50 年が経った頃だと言われています。この福音書を書いたマタイが属していた教会の 50 年は、再臨の時を待ち望み続けた 50 年、終末の時を信じて歩み続けた 50 年であったことでしょう。当時の人の寿命を考えるなら、この時はもう、直接キリストを知っている人の数は少なくなっていたと思われます。しかもこの時、マタイの教会は迫害と不当な苦しみに直面し、教会存亡の危機にあったとも言われています。

今日の個所の 41 節に「**だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。**」と書かれていました。「**ミリオン**」というのはローマで使われる距離の単位です。敢て、ローマの単位を使うところにマタイの教会が迫害と不当な苦しみを強いられ、厳しい状況に置かれていたことが分かります。福音書記者マタイはキリストの時から 50 年が経ち、教会が存亡の危機に置かれた中でキリストの教えを纏めたのです。マタイは自分の属する教会を励ますために、教会が信仰から離れないように、今の状況と課題を見据えながら、この福音書を書きました。今こそ、キリストの言葉を教会に語り直そう、もう一度、キリストの言葉に立ち返ろうと考えたのでしょう。

教会は何時の時代にあっても敵意を向けられるということはあります。敵は外ばかりではなく内にもあるものです。現実に教会の中には悪が侵入して混乱することがあり得ます。今日は旧約から『**申命記**』を読みました。『**申命記**』という言葉には“**律法の写し**”という意味が込められていて、具体的にはモーセの律法が纏めて書かれています。そのために“**モーセの遺言**”とも言われています。朗読された箇所には“**新たな預言者が立てられる**”という約束の言葉が書かれています。それはつまり、私たちにとっては『**メシア預言**』であり、“**キリストが与えられる**”という約束です。モーセは“**あなた方は預言者の語る神の言葉に聴き従って生きるように**”と、厳しい口調で命じています。

22 節に興味深い言葉がありました。「**その預言者が主の御名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないならば、それは主が語られたものではない。預言者が勝手に語ったのであるから、恐れることはない。**」“**同じ神の民の中に偽物が混じっている。しかし、偽物と本物を見分ける方法がある。それは、そのことが実現するかしないかによって分かる**”と言うのです。神の言葉は必ず実現するからです。しかし、私たちに本物と偽物を見分けることは難しいことでしょう。私たちが悪を見分けるために頼りにするのは、古くから伝わる習慣やこの世の常識ではありません。私たちが立ち返るべきはキリストの言葉です。今日、私たちに与えられました御言葉は、教会が存亡の危機に直面した時、私たち一人ひとりが、どのような態度をとることが求められているのかという問いに対するキリストの言葉であります。「**目には目を、歯には歯を**」という言葉は、旧約聖書のレビ記などに書かれています律法に記された言葉です。“**目を失わせた人がいれば、その人の片目も失われなければならない。**”もし、“人の歯を失わせた人がいれば、その人の歯も失われなければならない。”同じ害と書いて『**同害復讐法**』と言われていました。この同害報復は、イスラエルに限らず、古代社会の基本ルールであったそうです。この法は決して復讐心を煽るための言葉ではなく、過剰な報復の抑制と復讐の連鎖を断ち切るために必要なルールとして用いられていました。私たちは誰かに頬を叩かれることはないにしても、言葉や態度によって侮辱を受けるということはあるでしょう。その時、一言悪口を言われて、同じように一言だけ言い返して満足する人は滅多にいません。侮辱されたり、軽蔑されたり、悪口を言われたら、怒りに任せて何倍にしても返すのが私たちではないでしょうか。しかし、キリストは、“**悪人に手向かってはならない**”と言われ、報復の権利を放棄するように命じられます。日々の生活において、寛容で謙遜であることは大切なことであります。けれども、ここでキリストが言われているのは、悪に対して寛容であることを勧めているのではありません。全て悪と戦うための手段としての言葉です。右の頬を打たれたら左の頬を差し出す、下着を取ろうとする者には上着も取らせる、1 ミリオン行くように強いるなら 2 ミリオン進む。共通していることは差し出し続ける、さらに積極的に献げるということであります。キリストは弟子たちに向けて、“**あなた方がこれからわたしの福音を宣べ伝えようとしている人たちは、皆弱い。病があり、また罪を抱えている。だからあなたがたは、その人の病が癒えるまで、その人が悔い改める時まで、その人の心に福音が届き、浸み込むまで喜んで、その身を献げなさい**”と言われているのであります。

私たちはキリストが生涯を通して、最初から最後まで悪と戦い続けられたことを知っています。その戦いの手段として、全ての罪人の為に、頬を

打たれるどころか、葦の棒で頭を叩かれ、全身を鞭で打たれました。上着も下着も剝ぎ取られ、十字架を担がせられながら、ゴルゴダまでの道を歩くことを強いられました。復讐するどころか、殴った者を赦し、侮辱した者のために祈られました。それがキリストであります。本当の信仰者は自分で復讐しません。神に任せるのです。キリストに従い生きたパウロも『**ローマの信徒への手紙**』12:19 以下で、「**愛する者たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。**」と言って教会を励ましています。教会は主の言葉に聞き従う群れです。教会が悪と戦うことの目的はただ一つ。“**一人でも多くの人を救いたい**”との思いです。ですから、キリストは“**敵を愛せ**”と言われます。いつでも自分の権利を主張する人、自分のプライドに固執して絶対に譲らない人、権利をわずかでも侵害されたら断固として戦おうとする人がいます。ですから、“**敵を愛する**”ということは簡単にできる行為ではありません。決意が必要になります。私たちの愛は狭く、小さな世界に留まっていることが多いでしょう。しかし、神の愛は絶えず外に向かって開かれ、新しい交わりを造り出していることを求められています。そのためにキリストは「**自分を愛してくれる人を愛したところで、あなた方にどんな報いがあろうか**(46 節)」、「**自分の兄弟だけ挨拶をしたところでどんなに優れたことをしたことになろうか**(47 節)」”と語られているのです。

信仰生活というものは、神を信じる生活ですから、神のお考えがあります。神のお考えは、私たちの考えの及ばないところにありますから、多くの場合、私たちは自分の考えや思いや願いを捨てなければなりません。ですから本当に、その人を愛し、救われて欲しいと願うなら、自分の思いだけで行うのではなく、“**私は何をなすべきか？**”神に問わなければなりません。その人に、本当に必要なものは何か、何に行き詰っているのか、なぜ腹を立てているのか、何を守ろうとしているのか、なぜ私を迫害するのか、その人の本当の姿に近づくために、その人を愛するのです。人を愛するということは、時に抑制し戒めなければなりませんから、耐え忍ぶということが必要になります。しかし、私たちに強いられる忍耐は、ただ、我慢することではありません。信仰者の忍耐は神のご支配を信じることにあります。キリストは、“**あなた方を迫害する者こそ、愛という助けを必要としている人だ**”と言われているのです。“**罪ある人間を愛する**”、これは私たち自身が受けたキリストの愛です。敵を愛するということは、キリストが私たちのうちに宿り働かれる時にのみ可能になります。自分が好きになれない人、自分を愛してくれない人を愛することは、人間の力だけではできないからです。そのためにキリストは祈ることを命じられています。敵のために祈るということは、自分の目で見える事柄からではなく、神の観点から相手を見るということが起こらなければなりません。では、私たちの父なる神とはどのようなお方でしょうか、45 節に「**父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる**」とあります。神の愛の働きには一切の分け隔てがありません。神の愛は悪人であろうと善人であろうと、正しい者にも正しくない者にも注がれ与えられています。神は創造者として造られた全てのものの命を担うお方であるからです。

今日の個所の最後に、「**だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。**」とあります。“**どうして私たちが完全になれるの**”か、私たちは、この地上に生きる限り、いつまでも不完全です。罪も犯します。そして未完成のままで地上での命を終えることになります。しかし、キリストはそのような私たちと今も一緒に生きてくださっています。

今日はアドヴェント第二主日の礼拝を献げています。主の御降誕に備えるこの時、私たちの神はいつも共にいてくださる神であることを深く覚えます。“**神、共にいます**〈Μεθ’ ἡμῶν ὁ θεός. [メス・ヘーモーン・ホ・セオス 神.我らと共に]=Ἐμμανουήλ [インマヌエル]〉(マタ1:23)”、この「**います**」というのは、無条件、何の条件も無いということを言い表していることを私たちは知らなければなりません。“**最後の最後まで、御国に入る時まで、いつでも、いつまでも、無条件に共にいてくださる**”と約束してくださっているのです。ですから、ここでキリストが、「**あなたがたも完全な者になりなさい。**」と言われているのは、“**わたしと一緒にその日に向かって歩いていこう**”という招きの言葉であります。私たちは、キリストが共にいてくださるから、完全なものになることができるのです。天へと向かう道は一人で歩む道ではなく、キリストが同伴者なってくださる道であります。私たちは誰かに何かを強いられることもあるでしょう。嫌なことを言われたり、嫌なことをされることもあります。しかし、その時、主が共にいてくださって励ましてくださいます。怒る人、文句を言う人、自分の権利やプライドに執着している人は、“**神、共にいます**”という事実を、天の父である神からの最大の祝福と恵みを本当の意味で知らない人なのです。キリストによって救われ、罪人であるにもかかわらず、私たちは既に『**天の父の子とされている**』のですから、日々の思い煩いも、審きも、生も死も、父なる神に委ねることができます。御言葉に聞き従い、聖霊に導かれてクリスマスへの歩みを進み行きしょう。

お祈り致します。

聖なる神、この朝も、あなたの御子キリストが、山上から、今、私たちが聞くべき御言葉を語りかけてくださいました。この恵みを深く感謝いたします。主よ、どうか、私たちがこれからも、あなたの子としての歩みを続けていくことができますように。私たちの心が真直ぐにあなたに向かいますように。天のあなたを見上げて歩ませてください。

私たちがキリストの言葉に聞き従い、心から敵を愛し、迫害する者のために祈ることができますように、聖霊が執り為してください。

主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 394「ひとよ、汝が罪の」

献金・感謝・主の祈り(大隈道雄)

天にいらっしゃいます父なる神さま。私たちを夫々の生活の場から、あるいはライヴ配信において夫々の生活の場において、礼拝にお招きくださいましたことを感謝致します。

今日は、“**敵を愛する**”と言う、あなたの御言葉を講壇から伺うことができました。なかなか難しい命題ではありますけれども、どうか私たちがあなたに従って、あなたの子とをして、あなたの子に相応しい行いを為すことができますように、聖霊のお導きを祈ります。

どうか私たちが、僅かな力であっても、この世で平和を造り出すことができますように。そして多くの困っておられる方、弱っておられる方、不幸の中におられる方と共に隣に立ち、隣に座り、あるいはそれができなくても、その方々のために思いを馳せ、祈ることができますように。

私たちがあなたから戴いております物の中から、今、お献げ致しましたものを、どうか、あなたの御用のためにお用いください。

この１週間を、あなたのお生まれになりました日を覚えながら歩むことを許してください。主の祈りを共に祈りたいと思います。**「主の祈り」**…アーメン。

讃美歌：90「主よ、来たり、祝したまえ」

派遣・祝福：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたー同と共にあるように。アーメン。

報告：⑴伝道委員会：“『信濃町教会のクリスマス 2024』はがき”の有用活用　⑵北支区新年礼拝への出席要請（年度の方針『教会間の協力』をテーマに）

後奏：「今来たりませ、異邦人の救い主」（H. ディストラー）